

実施目的 多摩地域は、豊かな自然や多くの観光資源が存在しているものの、有効に使える観光ルートも少ない。そのため、旅行者や住民が気軽に観光できる地域の魅力を活かした学生等の企画提案である多摩エリアマイクロツーリズムコンテストで表彰を受けた事業のうち、民間事業者による事業実施の可能性のあるマイクロツーリズムツアーをモニターツアー事業として実施し、持続性のある地域活性化につなげることを目的とする。

実施内容

多摩で日帰り海外旅行

多摩で日帰り海外旅行 (桜美林大学企画提案) 実施地域:多摩市
 実施日①:2023年2月14日(火曜日) 参加人数13名(当日2名キャンセル)
 実施日②:2023年2月15日(水曜日) 参加人数14名(当日1名キャンセル)

12:15 多摩センター駅出発
 ▼(徒歩)

12:30~14:00 La Pala(昼食)
 ▼(徒歩)
 本格的なイタリアンレストランで、オーナーによるイタリア語の会話やナポリの話、蓄音機からの音楽などにより海外気分を演出

14:15~14:35 パルテノン大通り(説明・見学)
 ▼(徒歩)
 いずれの似た施設とされる海外の現地施設を訪問した経験のあるベテラン添乗員が、現地の様子などを交えて詳しく説明。

14:35~14:45 パルテノン多摩(説明・見学)
 ▼(徒歩)
 オーストリアにあるシェーンブルン宮殿と似たような景色を体験

14:55~15:25 旧富沢家住宅(説明・見学)
 ▼(タクシー)
 韓国の民俗村と似たような景色

15:55~16:25 桜ヶ丘公園 ゆうひの丘
 ▼(タクシー)
 メキシコのグアナファトの景色をイメージ

16:45 京王永山駅到着



雫のように恋をしよう！女子力UPツアー

雫のように恋をしよう！女子力UPツアー (桜美林大学企画提案) 実施地域:多摩市
 実施日①:2023年2月17日(金曜日) 参加人数7名(1名当日キャンセル)
 実施日②:2023年2月18日(土曜日) 参加人数8名

11:30 聖蹟桜ヶ丘駅 出発
 駅前の青春ポストのご案内
 ▼(徒歩)

12:00~12:30 (徒歩にてスポットごとにご案内)
 ・大栗川河川敷
 ・いろは坂
 ・金思羅神社
 ・桜ヶ丘ロータリー
 ▼(徒歩)
 現地ガイドがパネル等を活用し映画のモデルとなった地を詳しく案内
 徒歩での移動中も映画のスポット以外にも見どころなどを説明

12:30~14:00 Dining 和桜
 ▼(自転車)
 映画のシーンで登場した鍋焼きうどんを再現店主との会話をしながら食事を楽しむ
 食事後は近くに有名な洋菓子店があり、昼食後の訪問できるような案内

14:30~15:00 桜ヶ丘公園 ゆうひの丘
 ▼(自転車)
 電動自転車を利用し、多摩の丘陵地帯を自転車で走り、景色を楽しむ
 ゆうひの丘から都心や聖蹟桜ヶ丘周辺の眺望
 自然豊かな多摩エリアを体感いただく

15:30 聖蹟桜ヶ丘駅 到着



たま公園ロゲイニング

たま公園ロゲイニング (明治大学企画提案) 実施地域:稲城市
 実施日:2023年2月23日(木曜日) 参加人数52名

13:00 城山体験学習館 集合
 諸注意・ルールの説明など

13:20~13:30 作戦タイム
 ▼(徒歩)
 13:30~15:30 ロゲイニングイベント開始
 ▼(徒歩)
 35のチェックポイントを回り写真を撮影
 点数を集め、指定時間内にゴールする

15:30~16:00 集計・結果発表



事業成果

多摩で日帰り海外旅行

雫のように恋をしよう！女子力UPツアー

(1)多摩地域におけるマイクロツーリズムの可能性 参加者の中には市内在住者や近隣市の在住者も多く、事業化に向けてその評価がどう出ることが本ツアー実施にあたって注目点と捉えていました。結果として、「市内在住であったが初めて知った。」などマイクロツーリズムの価値に理解を示す声が多く、マイクロツーリズムの事業化の可能性を確認することができました。

(2)産官学連携による多角的な視点でのコンテンツ開発 大学生の提案を基に実施したツアーでは、旅行事業者には気づかない新たな視点も多く、新たな気づきの場となりました。このようなツアーの開発は、旅行事業者だけでなく、地域の教育機関や自治体および関係者を巻き込み開発していくことがますます重要であることを認識しました。

たま公園ロゲイニング

(1)ロゲイニングがもたらす効果 今回と似たようなイベントではスタンプラリーや謎解きなど近年、地域内を回遊する仕組みとして多くの自治体等で取り入れられています。しかし、スタンプラリーなどと違い、制限時間内という条件があり、メンバーと知恵を出し合い、いかに効率よく回り得点を稼ぐことで、より楽しくイベントに参加することができるほか、アンケート結果からも「いい運動になった」「疲れた」など運動不足解消や健康増進にもつながることがあらためて確認できました。

(2)産官学連携による充実した教育機会の提供 今回、企画した学生が事業運営の支援にあたることで、学生や教育機関にとっても新たな学びの場、自身の企画の検証の場となり、机上では得られない教育の機会の提供にもつながりました。さらにこの経験を通じて、企画の磨き上げや新たなニーズ・企画の展開にもつながることや、様々な人との関係構築、事業化への検証など実践型教育としての役割を果たしていると考えます。

今後の課題と展開

多摩で日帰り海外旅行

雫のように恋をしよう！女子力UPツアー

(1)地域のコンテンツを発掘する・磨く 今回の事業を通じ、観光立国を目指す日本として、観光教育の充実も図られていくことから、観光関連の教育機関とも連携し、多様化する価値観を敏感にキャッチし、ツアー化につなげる取り組みも今回の取り組みで、重要性を認識しました。

また、マイクロツーリズムでは地元の人やガイドとのコミュニケーションや、生の声・情報が参加者にとって非常に有益であり、ツアーガイドがマイクロツーリズムの価値をさらに高めることに大きく寄与していたことは今回の両ツアーからも明らかになりました。一方で、事業化に向けてはガイドの育成や、ガイド事業での収益化も必要となり、それをツアー単価に適正に反映できるかが課題と考えます。

ガイド事業についてはそのスタートアップを自治体や地元事業者で支援する仕組みや自走化に向けた金銭的支援なども今後の課題と考えます。このような課題や成果を踏まえ、地域のコンテンツを産官学連携で発掘し、磨き上げ、地域が一体となって事業化に取り組めるかが今後の重要なポイントと考えます。

(2)急速に増加するインバウンドへのコンテンツ提供 インバウンド需要が急速に戻りつつあります。空白のコロナ期間を経て、人々の価値観も変化し、観光に対するニーズもコロナ前と違った体験やカルチャーなどが求められています。新たなインバウンドのニーズに対応するためにも、多言語化なども今後の新たな課題です。今回のような映画やアニメなどのコンテンツはインバウンドにも訴求力のあるコンテンツであり、高単価での提供も可能であり、事業化の近道とも考えます。

たま公園ロゲイニング

(1)イベントのコンセプトの明確化 ロゲイニングは一部ではスポーツの領域と捉えられている部分もあり、スポーツ要素をメインに参加する参加者とファミリー層とで大きな意識の差が生まれ、結果として、参加者の目的である賞の獲得はそのすべてがスポーツ競技という認識で参加した方々に渡ることとなりました。今回、ここまでスポーツ認識があることは想定していなかったため、イベント開催時には参加要件を設けることやスポーツ部門とファミリー部門の2つの部門に分けるなど、一定の配慮が必要であると認識しました。

(2)地域産業を巻き込んだイベント 今後の展開においては、商業(商店街や各店舗)、企業(地場産業)、1次産業(農業)なども、それぞれの同意・協力を得ながらターゲット設定することで、より当該エリアを深く知ることにつながると考えます。そのためには運営事業者だけでなく関係する自治体や組織団体などの理解と協力、連携が重要になると考えます。

(3)周辺自治体・公共交通を巻き込んだ広域展開 今回は稲城市で実施し、移動は徒歩に限られていました。今回のような1つの自治体単位で実施するミニマムな方法以外にも周辺自治体を巻き込み、公共交通機関の利用に限定することなどの条件を付けることで1日開催を2日間開催にすることも可能と思われます。その際には滞在時間が増加することから宿泊需要や飲食需要も増加し、結果として地域の経済にもさらに大きな効果をもたらすことが可能です。また、参加者にとっては広域になることで事前学習の範囲が広がり、域内をより深く調べることでイベント前に地域を深く学習する効果もあります。